『音声DL付き 最短合格！ 日本語教員試験〈応用試験〉徹底対策問題集』に関して、以下の誤りがありました。

深くお詫び申し上げますとともに、訂正させていただきます。なお、書籍によっては、修正されている箇所があります。

訂正箇所	誤	正
28ページ	内省的実践	反省的実践（内省的実践）
35ページ	内省実践家	反省的実践家（内省的実践家）
40ページ（Q.42答え）	A.メタ言語行動表現	A.メタ言語表現
47ページ（問3・選択肢3）	3　二つの言語が混在しないよう、学校では第二言語のみを使用し、第一言語の使用を優先する。	3　二つの言語が混在しないよう、学校では第二言語のみを使用し、第一言語の使用を控えさせる。
52ページ（問3・選択肢4）	学習者に説明させていない。	メタ言語フィードバックの場合は、形式への気づきを促したあと学習者自身に解答させるが、ここでは教師が解答を述べている。
53ページ（実践問題⑧問題文・下から4行目）	教育現場の明確にし改善を図る	教育実践を見直し、改善を図る
64ページ（問5・選択肢3）	授業で扱った市販教材をPDF 化し、復習用として受講者限定のLMS に掲載する。	授業で扱った市販教材全体をPDF 化し、復習用に受講者限定のLMS に掲載する。
75ページ（Q.18問題文）	Q.18　発話や作文を通して、自分の知識不足に気づく過程を何というか。	Q.18　発話や作文を通して、自分の知識不足に気づくという仮説を何というか。
75ページ（Q.27問題文）	Q.27　明示的知識が暗示的知識（運用能力）の発達に影響するかという論点は何に関わるか。	Q.27　明示的知識が暗示的知識（運用能力）の発達に影響すると考える立場を何というか。
75ページ（Q.27答え）	A.インターフェイス論	A.インターフェイスの立場
85ページ（問5・選択肢2）	2　語彙テストは語彙確認には有効だが、読解前の理解支援にはなりにくい。	2　語彙テストは語彙確認には有効だが、理解支援にはなりにくい。
85ページ（問5・選択肢3）	3　音読活動は発音練習には有効だが、読解前の内容理解には結びつきにくい。	3　音読活動は発音練習には有効だが、内容理解には結びつきにくい。
101ページ（問3・選択肢1）	1 「～わけだ」「～てもいい」「～のだ」	1 「～わけだ」「～てもいい」「～だろう」
101ページ（問3・選択肢4）	4 「～つもりだ」「～ほうがいい」「～らしい」	4 「～なければならない」「～ほうがいい」「～らしい」
102（103）ページ（問3・解説）	1・3・4は、すべて義務的モダリティである。	1 「～わけだ」「～だろう」は認識的、「～てもいい」は義務的である。 3 「～ばよい」「～てはいけない」は義務的、「～みたいだ」は認識的である。 4 「～なければならない」「～ほうがいい」は義務的、「～らしい」は認識的である。
117ページ（下表・コンテクストの内容）	場面や関係制に基づく判断	場面や関係性に基づく判断
142ページ（Pointの1行目）	誤まり	誤り
145ページ（解説・7番・スクリプト2行目）	何時にご帰宅しますか。	何時にご帰宅しますか。
149（中央右の図タイトル）	日本語の母音	日本語の母音の舌の位置
152ページ（実践問題④・5番・選択肢A	A　調音点	A　子音の脱落
155ページ（11番・選択肢B）	舌の高さの誤り	舌の高さと唇の丸めの誤り
155ページ（11番・選択肢C）	舌の前後位置と舌の高さの誤り	調音法の誤り
155ページ（解説・11番・スクリプト）	箱根で温泉旅館に泊まります。	箱根で温泉旅館に泊まります。
155ページ（解説・11番）	日本語教育において現代共通日本語の「う」は、非円唇の[ɯ]として差し支えない。一方、[o]は円唇母音なので、「舌の高さ」に加え、「唇の丸め」について言及されることもある。 例えば、この出題で選択肢に「舌の高さと唇のまるめの誤り」とあれば、そちらが「最も適当」ということになる。非円唇の[ɯ] と円唇の[u] の聞き分けは難易度が高いため、単独で問われるよりも、選択肢や他の特徴と組み合わせて判断を求められる場合がある。唇を突き出して円唇化したものとそうでないもの、自身で2種類の「う」を発音してみて、音の違いを意識しておくと発音指導に役立つだろう。	日本語教育において、現代共通日本語の「う」は非円唇の[ɯ]として差し支えない。しかし、学習者の発音する「う」が必ずしも非円唇ではないという点には注意が必要である。 非円唇の[ɯ] と円唇の[u] の聞き分けはやや難易度が高いかもしれないが、明らかな違いがある。「舌の高さ」を逃さないようにするなど、ほかの特徴と組み合わせて落ちついて判断してほしい。自身で2種類の「う」を発音してみて、音の違いを意識しておくのも有効である。発音指導にも役立つだろう。
209ページ（問題12・【資料1】の表） （元の表のA～Jの得点は削除します。）	省略	<table><tr><th></th><th>満点</th><th>平均点</th><th>標準偏差</th></tr><tr><td>語彙</td><td>30 点</td><td>22.4 点</td><td>5.28</td></tr><tr><td>文法</td><td>50 点</td><td>33.6 点</td><td>6.0</td></tr></table>
209ページ（問1・選択肢1～4）	1　語彙テストは文法テストと比べて平均点が高く標準偏差が小さいため、多くの学習者が同程度に高得点を取っており、学習者間の能力差を十分に測定できていない可能性がある。 2　語彙テストは文法テストと比べて平均点が高く標準偏差が大きいため、全体的に得点は高いが、学習者間の能力差は小さいテストであるといえる。 3　文法テストは語彙テストと比べて平均点が低く標準偏差が低いため、学習者間の得点差が大きく、識別力の高いテストであるといえる。 4　文法テストは語彙テストと比べて平均点が低く標準偏差が大きいため、多くの学習者が同程度に低得点を取っており、能力差がほとんど表れていないといえる。	1　語彙テストは文法テストより平均得点率が高く、標準偏差から得点のばらつきも確認できるため、学習者間に得点差があると考えられる。 2　語彙テストは平均得点率が比較的高く、標準偏差の値も小さいため、学習者間の能力差を十分に測定できていないと考えられる。 3　文法テストは語彙テストより平均得点率が低く、標準偏差の値は大きいため、学習者間の能力差が大きいと考えられる。 4　文法テストは語彙テストより平均得点率が低いため、得点が平均点付近に集中し、学習者間の得点差が小さいと考えられる。
221ページ（問題3・2番・問1・選択肢C）	C　ディトグロス	C　ディクトグロス
232ページ（問題12・問1解説）	本問は、平均点と標準偏差の組み合わせからテストの性質を判断する問題である。特に重要なのは以下の2点である。 ・平均点：テスト全体の難易度を示す。 ・標準偏差：得点のばらつきを示す。ばらつきは学習者間の能力差の現れであり、標準偏差の値が大きければ大きいほど、能力にばらつきがある。	標準偏差は、得点のばらつきを示す数値のこと。小さいほど平均点付近に得点が集まり、大きいほど得点のばらつきが大きい。 満点が異なるテストは100点満点に換算する。「平均得点率（平均点÷満点×100）」は、語彙テストが「22.4 ÷ 30 × 100 ≒74.7%」、文法テストが「33.6 ÷ 50 × 100 ＝67.2%」で、語彙テストが7.5ポイント高い。「標準偏差（標準偏差÷満点×100）」は、語彙テストは「5.28÷30×100＝17.6」、文法テストは「6.0÷50×100＝12」で、語彙テストのほうが値が大きい。つまり語彙テストのほうが得点のばらつきが大きく、学習者間に得点の差があると考えられる。 4　平均得点率の低さは、得点が平均点付近に集中する根拠にはならず、不適当である。
234ページ（問題2・1番・問1解説）	相手の発話の一部または全部を繰り返して問い返すコミュニケーションストラテジー。ディスプレイクエスチョンは提示質問のこと（指示質問はレファレンシャルクエスチョン）。	相手の発話の一部または全部を繰り返して問い返すコミュニケーションストラテジー。選択肢にはないが、指示質問はレファレンシャルクエスチョンとも。
234ページ（問題2・2番・問1解説）	ザ（歯茎摩擦音）とジャ（歯茎硬口蓋摩擦音）の区別が聞き取れていない。	ザとジャの聞き取りができていないのは明らか。加えて、教師の発話を繰り返す場面では有声音と長音に問題があり、聞き取れていない可能性も考慮する必要がある。